

第2次 向日市地域福祉計画 策定委員会

平成22年度 第4回 策定委員会議事要録

日 時：平成23年2月28日（月）午後1時30分～4時15分

場 所：福祉会館 3階 大会議室

出 席：山本委員長、上田委員、清水委員、河合委員、木下委員、木ノ山委員、佐野委員、野田委員、森川委員、矢野委員、余田委員、渡辺委員（途中から出席）

1. あいさつ

事務局

本日は足元のお悪い中、また年度末のご多忙な折、向日市地域福祉計画策定委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。これより、第4回の策定委員会を開催いたします。はじめに山本委員長より、ごあいさつをお願いします。

山本委員長

本日が向日市地域福祉計画策定委員会最後の会議となります。市民会館での市民の集いの際も雨でしたが、本日も雨となりました。

ご検討いただきました計画は実行していかなければ意味がありません。地域福祉計画で最も立派なものをつくったと、私たちの学会で評価されているのは、大阪府豊中市です。どこがよいかのかは、エリア設定にあります。3～4のエリアに分けて、地域と社会福祉協議会と市役所が協力して実施体制を組んでいます。地域福祉でポイントとなるのは社会福祉協議会です。

私の住んでいる上植野は、社会福祉協議会や福祉の活動にあまり関心があるようには思えません。私の大学は、ミッション系の大学なので、マザーテレサとも関係があります。マザーテレサは、愛情の反対は、無関心であるとおっしゃっています。困っていらっしゃる方の状況を、地域でどのように把握し、共有するのが課題となります。今日から、改めて地域のことに関心をもっていきたいと思います。

事務局

委員長のごあいさつにもありましたが、地域福祉計画の最終協議となります。各委員の任期は、平成23年2月5日で任期満了となっておりますが、当初に計画策定を終えるまでお願いしたいと申し出ておりました。今回は、任期が切れておりますが、計画策定を見届けていただき、3月31日を切りに任期を満了とさせていただきます。ご理解いただき、ご承認をお願いいたします。

委員長

市民としては、任期などについては無頓着でしたが、手続き上は任期が切れているという事です。事務局の提案通り、引き続き、最後までこのメンバーで検討するという事でご了承いただけますでしょうか？

委員各位

了解。

2. パブリック・コメントの結果について

事務局

(資料1 パブリック・コメントの結果報告)

清 水

パブリック・コメントの意見を提出された、出された方の年代や性別はどうだったのか？

事務局

年齢はわからないが、全員が女性でした。

委員長

パブリック・コメントの結果が0という場合もあるが、今回は3名からいただいたということでした。

3. 計画の最終案について

事務局

本日の委員会の事前資料として配布しました最終案でミスがありましたので、本日、差し替え版を配布させていただいています。

前回の策定委員会からの主な修正箇所は、次のとおり。

- ・ ページの上に章タイトルをつけ、章のはじめを右ページに。
- ・ データの見直し。ただし、人口は国勢調査の詳細データが公表されるのが今年の秋以降ということなので、推計データをそのまま使用。
- ・ 表現の重複を避け、できるだけ平易な文章に。
- ・ 資料編を添付。
- ・ 目次 頁がずれたため修正。
- ・ 1 頁 「要支援者」の解説を移動。
- ・ 5 頁 人口、世帯数は横ばいになるとしていたが、より詳しく記載。
- ・ 7 頁 人口に占める割合を修正。
- ・ 10 頁 「5. 向日市社会福祉協議会の状況」として章・節の構成を変更。

- ・11頁 10頁の関係で「6. 市民活動の状況」以降節の番号が変更。(1) 自治会・町内会、(2) 地区社会福祉協議会となり、地区社協ごとの主な事業を記載。
- ・13頁 前回のご指摘に沿って表を合体。
- ・15頁 福祉分野の登録団体を掲載していたが、活動分野の詳細をとの意見があったが、分類が難しいため一覧表のみに。
- ・16頁 社会福祉協議会で実施されたアンケート調査は、行政区別の集計が行われていないので、その旨を明記。
- ・18頁以降 アンケート調査の結果は、複数回答と記入なしを追加して、単数回答として処理し直し、それぞれの表・グラフの下の説明を簡単に。
- ・28頁 新しい施策の体系図を掲載。
- ・30頁 ③に「地域での出会いやつながりの場・機会づくりを促進します。」を追加。
- ・34頁 ③に「ボランティアセンターや市民協働センターが中心となり、各ボランティア団体の交流の場づくりに努めます。」を追加。
- ・36頁 ②に「地域における要支援者の発見や安否確認を行うため、地域の関係者と関係機関が連携できる体制づくりを促進していきます。」を追加。
- ・37頁 「名簿利用に関する契約」の解説を追加。
- ・39頁 総合相談窓口の記述を「(1) 安否確認、見守りシステムの構築」から「(2) 情報ネットワークの整備」に移動。
- ・45頁 現状と課題を修正。考え方に「地域ごとのボランティア活動などのネットワークづくりを促進します。」を追加し、順序を入替え。取組の方向性に「①地域で活動するさまざまなボランティアなどが情報交換や交流する機会を提供していきます。」を追加。
- ・48頁 ②に「民生・児童委員や地域包括支援センターなどによる訪問活動により、要支援者の早期発見や実態把握に努めます。」を追加。「福祉サービス利用援助事業や成年後見制度の周知と利用促進に努めます。」を49頁の(2)の①に移動。
- ・50頁 現状に関する記載を修正。
- ・52頁 考え方「当事者や当事者団体の活躍の場・機会を充実します。」を追加し、取組の方向性に「③当事者や当事者団体がその持てる技能や経験などを活用し、生きがいつくりや社会貢献に取り組むことができるよう、積極的に支援してきます。」を追加。
- ・57頁 「地域福祉基金」の解説を追加。
- ・資料編 策定経過と策定委委員会の要綱・委員名簿を掲載。

委員長

前回配布されたものから、かなりの部分で修正・変更されているが、これについてご意見はないか。

52頁の「考え方」で「当事者や当事者団体の活躍の場」となっているが、「活動の場」ではないのか？「活動」は行動することで一般的に使われるが、「活躍」だと主観などが入ることとなるが、意図的にそうしているのか。

事務局

当事者の方が積極的に動いていただきたいという意味を込めて、あえて「活躍」として
います。

委員長

地域福祉の推進で重要なのは、社会福祉協議会であるが、それをバックアップするのが
住民の活動となる。

木 下

向日市では、自治会や団体でいろいろな活動をされているが、これらが地域のつながり
になっているかという、必ずしもつながっていないことがある。地域や団体、地域活動
を見直すことが必要であると感じており、一人ひとりの問題でもあると思う。

「まちボラ」という、まちづくりを行うボランティア活動が出てきている。ボランティ
ア活動を行っている人が、地域のためにボランティア活動をできるよう、転換していくよ
うに働きかけていくことが必要であると考えている。

3月の京都府の広報の1面で「京都式地域包括ケアシステム」が取り上げられるよう
になってきている。3月19日に「福祉で地域づくり研究会」の開催を予定している。「福祉」
という暗いイメージになるが、明るい印象を持ってもらえるように努力したい。

委員長

雇用が不安定な状況では、なかなかボランティアは育たない。

ボランティアが育つか育たないかは、リーダーや中核となる団体の力量にかかっている。
そのため、リーダーを育成するとか、地域活動団体などに動員をお願いすることとなるが、
人を動かすにあたっては、学習会やイベントなどへの参加を強くねじ込むぐらいの力が必
要になる。よそいきの関係では、人は動かないし、ボランティアは育たない。

先に紹介した地域福祉の模範となる豊中市では、地域福祉計画策定直後に策定委員長の
関西学院大学の牧里先生のお住まいの学区内で、資産家の姉妹が餓死された事件が起こっ
た。地元の著名な資産家で、バブル期にたくさんマンションを建てられたが、不景気にな
って、資産維持ができなくなり、生活に困窮しておられたようだ。資産家として著名で
あった人が役所に生活保護の申請はしにくいただろう。豊中市の地域セーフティネットが発
見できなかった。水道費や光熱費などが大きく変動した時が発見・手助けのきっかけとい
われている。残念ながら、関西電力の支社が豊中市内になく、電気使用量が少ないことも
チェックできなかったようである。市役所は知っていたが声かけができないまま、餓死さ
れた。

地域福祉計画で書いても、何かが起こってしまうのが、地域福祉である。つながりがあ
っても、お節介をしなければ救えない。人と関わって救いたいという思いがないと救えな
い。「福祉マインド」より一步踏み込んで、人情や情け論、泥をかぶるぐらいのことがない
と救えない。「プロボノ」や「まちボラ」以上の関わりが必要となるのが現実の社会だと思
う。隣の人を怒ることができるほどのコミュニティが必要だ。大阪にはコミュニティソー
シャルワーカーというお節介屋さんを配置しているが、それでも起こってしまう。無縁社
会の加速の方がすごいことになっている。

地域福祉計画の字句を修正することについては、事務局にお任せするということによろ

しいか？どうしても違和感がある部分についてのみ、ご発言いただきたい。

委員

特に意見なし

委員長

確認ができたということで、第2次地域福祉計画についての検討はここまでとする。

4. 平成22年度の進捗状況について

事務局

地域福祉計画は、平成18年に策定して5年が経過しました。皆さまのご協力を得て、いろいろな取組を行ってきています。平成22年度の事業報告に関する取組についてご説明します。(資料4参照)

委員長

年間の活動状況をまとめて報告していただいた。ご意見があればどうぞ。

清水

第6章23頁 市民協働センターの活動実態をもう少し詳しく報告していただきたい。

事務局

寺戸公民館の中に設置されており、印刷機の貸出や市民向けの講習会などが開かれています。

清水

利用団体数や利用者数などはどうか？

事務局

登録されている団体はかなりあるが、ここで活動されているというより、支援が主な事業となっています。

清水

出前講座やセミナーなどが活発にされているようだが、参加率や参加人数は当初目標からみるとどうなのか？

事務局

地域福祉課では、具体的な数値は把握していない。地域福祉課の場合、出前講座は地域からのご要望があれば伺うので、2~3人であっても対応しています。

木下

社会福祉協議会では、認知症フォーラムについては300人ぐらいが集まっていただき、関心が高かった。「地域福祉」についてはイメージがつかみにくいのか、若干参加率は低い。

委員長

イベントをしましたでは評価できない。参加状況などは把握しておく必要がある。参加者を増やすとしたらどの程度にしようとするのか、ということを検討できるようにする必要がある。現状についてどう思うかということで進捗についての理解が深まる。行事紹介型や数字だけにとどまらず、実感などの所見を報告していただけると市民も理解しやすくなる。参加率なども戦略などを見すえて記述していただきたい。

イベント等は、行政や社会福祉協議会などが多岐にわたって活動されている。ボランティアの潜在人口、人びとのハートをつかむためには戦略が必要だ。ある自治体では、市外の人を専門委員として入れて、こんなことしよう、それはあかんということを喧々諤々と議論をしている。認知症がテーマとなると参加者が多いということだが、テーマが明確になると興味・関心が高まる。

今回の地域福祉計画では触れなかったが、今、介護保険が大変なことになっている。介護保険料が各市で2,000円前後から始まって今回は5,000円を超えそうと想定されている。このまま推移すると1万円を超えると国が危機感を持っている。そこで地域包括ケアという考え方がだされた。介護・予防・医療・生活支援・住まいの5つのサービスを中学校区レベルで完結させるというものである。

この地域包括ケアを各市町村が中学校区レベルで計画するという事になっている。介護保険の地域包括ケアと地域福祉とがどの程度リンクしてくるのか、が問題だ。医療と介護と在宅の連携を24時間実施するとなると、かなり高額になる可能性がある。これらを来年度、介護保険事業計画を策定される中でまとめられる事になっている。

木 下

認知症の学習会開催にあたっては、各種団体の方にかなり無理してお願いしたということも影響したと思う。参加された方にお聞きすると、認知度や満足度も高くなっている。ロコミが大切だと実感しているし、もっと強制的・積極的に働きかけていくことが必要だと思う。

地域福祉という取り組みについて、学校教育や各種団体の代表などに知っていただく機会をもってもらえるとよいのではないか。公的な形で知ってもらうことも必要ではないか。障がい者団体などの協力をいただいて、出前教室を実施しており、子どもたちにも喜ばれている。中学校は1校しか取り組めていないが、他校でも実施していければと思う。障がいの声を聴いて、子どもたちは本当にいろいろなことを考える。

5. 平成 23 年度事業の推進について

事務局

第2次計画を受けて、各課の取り組みをまとめることとなっています。

資料5は、平成22年度の実績を踏まえた、たたき台ですが、同じものが継続されるには限らず、今後調整していく予定です。

これまで推進委員会では、年度末に報告だけを行っていましたが、次年度以降は、年度初めに事業の取り組みを提示し、年度末にその結果がどうであったか、よかったのか、継続すべきか、などをご議論いただこうと考えています。

委員長

ビル・ドレイトンという社会起業家も若い人、高校生を対象に熱心に話をされ、大人は相手にされていない。重点的に啓発する相手をもっておく必要がある。小学生をねらいとすることも必要かもと思う。

清 水

福祉のむずかしさはみんな認識している。森本町では自治会やその他の団体（長寿会、地区社協、子ども会）が一体となって行事に取り組んでいる。夏のワクワク故郷まつりでは、800人が参加した。各団体が協力し、持ち分を明確にして、力を合わせている。

ボランティアをお願いする際には、個人のネットワークを活用している。常日頃の話合いがないと、「自分の時間を大切にしたいから、やらない。」ということになる。日ごろの付き合いがある人が、断られても何回か声をかけると「今回は、協力しよか」ということになる。その中で何人かが「これならできる」と思い、継続して参加してくださるようになる。

子ども向けには、年に6～7回、昔遊びをしたり、食事会をしている。昔遊びはとても喜ばれ、このようなつながりから、あいさつをしてくれるようになった。

委員長

日頃のつながり、交流が大切ということである。

6. 各委員から一言（感想・意見など）

野 田

平成22年度の取組みを見て、こんなこともされているのかと初めて知ったこともある。

「検討」という記載がどこまでやっているのかがわからないので、どのように検討されているのか、ということなども掲載してもらえるとわかりやすい。

地域福祉計画というのは、このようにまとまるのか、というびっくりする思いだった。いろいろな市民の方に読んでもらいたい。自分も読み込んでいきたい。いろんな方と作ったということをロコミでアピールして、読んでもらえるよう努めたい。

森 川

すごいものができた。障がい者の立場でいうと、向日市は日ごろからよくやっていたている。あれもこれもと言いだすときりがないが、一つひとつ着実にやっていくということが大切だと思っている。この計画に基づいて、一つひとつやっていってほしい。

矢 野

地域に根差した活動を民生・児童委員として関わっているが、住民の身近な声を聴くのが民生・児童委員の役割であると実感した。

回覧だけでなく、私が一言声をかけたり、説明をしたりするだけで、動いてくださる方がいる。声かけが必要だと思っている。民生・児童委員も認識をもって地域に呼び掛けていく活動する必要がある。10年間にわたる計画だが、高齢者や母子家庭は増えており、ニーズは1年で変わる。計画の実践にニーズが追いついていくのは大変だ。ニーズの変化に計画がどこまでついていくのか。

高齢化が進んでおり、認知症に対するご近所の見守りをしたいから、誰かが中心となってやってくれ、という声があがっている。小規模多機能型施設の方も出前講座をずっと言っていたらいい。近いうちに、この要望に応じて行きたいと思っている。

余 田

長岡京市との境で暮らして 25 年たった。上植野地区で支え合いの会議のお世話をしている。月に 1 回、みなさんと一緒に話をする機会をもっている。このような場がよい、と行って来てくれる人がでてきて、5 年経過した。いろんな話をして、具体的な取組みにもつながっている。その中で、特別企画（3 カ月に 1 回）として、防災や防犯学習会をやることになった。何人集まったのか、というのではなく、内容の濃いものを行っている。ごあいさつをし合う人が増えてきた。

チラシ配布する時に、「あいさつをしましょう」というコメントを入れている。上植野の人は、阪急線を超えてコミュニティセンターの方にまで来ることがない。他地域との交流も必要だと思った。

渡 辺

京阪神を中心に子育て情報誌作りを行っている。向日支部がなくなったので、肩書は元としていただくか、理事としてほしい。

子育てをしながら仕事をしてきた。10 年前は出産で退社だったのが、現在は育児休暇を取ることがあたり前となった。子どもが小学校に入って、PTA の役員をすることになって、餅つきなどの行事で地域に関わることとなり、来年度は町内の会計があたっているので、さらに地域の方々と知り合いになることができると思う。

地域の役員には若い人が少なく、多くの方が 60 歳代・70 歳代の高齢者で、今はまだお元気だが、10 年後、20 年後はどうなるのか不安だ。行事を継続するには、これらの方々の力がないとできないのが現状だ。

河 合

みなさま方のご協力が無事計画ができ上がり、ありがとうございます。

介護保険事業計画もこれから見直しとなる。市民の集いや団体ヒアリングなどにもたくさん参加していただきよかった。

「福祉マインド」という言葉をここではじめて知ったが、その後時々見かけるようになり、先取的な計画ができてよかったと思う。

清 水

よくまとまっている。希望者に配布をするのか？

事務局

本編は多く印刷しませんが、見開き 8 頁の概要版は多く作成します。ただ、各戸配布とはならず、関係機関や希望者への配布となります。

清 水

委員の意見も反映され、市役所でもかなり検討されたと思う。イラストの挿絵が入ったので、和む部分ができてよかった。後は着実に一歩ずつ実行していくことに尽きる。

佐 野

寺戸中学校に出前教室で障がい者の方と 2 月 14 日の雪の日に行ったが、子どもたちが興味をもってくれたことがわかった。点字の表示を見たら、障がい者の方が使うものだと実感してくれた。

この地域福祉計画の点訳にも手伝っている。点訳に関わったおかげで、自分が担当した

ところについて、いろんなことがわかった。視覚障がいがある人は棒グラフも数字で把握される。町名別のデータについて、視覚障がいのある人には自分の場所を探す時に、真中だったらわかりにくいという指摘を受けたりした。障がい者、難聴者、視覚障がい者という言葉は、「きつい」と感じられる人もいる。「視覚障がいの方」という表現だと受け入れやすいそうである。

木 下

社会福祉協議会としては、あまり活動できないのではないかと考えている。活動するのは地域のみなさんで、そこにちょこっとしたつながりをつけるのが社協の役割かと思っている。形骸化しているものについては見直すことが必要だと思った。子どもや高齢者というのではなく、地域みんなのことを考えるということだと思う。

悪いうわさや嫌なイメージは広まりやすく、それによって阻害したり排除したりすることになる。しかしいい噂もある。自慢話にならない程度にいい噂を流していきたい。行政とどのように連携して地域をみていくのか、ということが大切だと思っている。

地域サポーターの取り組みを町内会でできないか、という意見があり、月1回おしゃべり会を開いている。地域で助け合える関係づくりをバックアップしていきたい。人は地域や社会で育てられる。今はそれがなくなった。今は個人で勉強して、1人で問題を抱え込み、悩んでいる。体験型の取り組みを充実させていきたい。

木ノ山

ほのぼのスクールとして、学童を集めて毎週土曜日に実施していた。27団体に参加していただき、だんだん活動に慣れてきて、ネタ切れになっている。指導者3人に子どもが1人の時もあった。シルバーにお願いして今も継続している。行政の協力が足りない。ここまでして子どもたちに経験をさせるという点では恵まれている。学生ボランティアには熱心な方がおられる。向日市には大きな問題がないので、浸透しにくいのかと思う。住みよいいところだと思っている。もう少し、みんなの知恵を出し合って、さらによいまちにしていきたいという思いだ。

上 田

老人クラブの女性部として参加している。ほのぼのクラブには、老人クラブで子どもと一緒に遊んだ覚えがあり、今の子どもの特性も学ばせてもらった。

女性部としても、つながりづくりが重要と考え、友愛訪問やクラブづくり、仲間づくりの重要性、独居老人の訪問を行っている。これからもこのような活動を充実させていきたい。

区民まつりや第5小学校の校庭で体育振興会と一緒に開催している体育祭も6割が女性である。女性会があった時は、ふれあい広場の活動も体育祭も活発だったが、女性会がなくなってから停滞気味になっていると実感している。

今まで、プライベートな問題は避けて通ってきたが、もう一步踏み込んで人のことを知る必要があると実感している。避けて通れない問題もある。絵に描いた餅にならないよう、みんなで見守っていきたい。

委員長

今後の進め方について見解もいただいた。事務局としては、実施に全力を尽くしてもらいたい。

事務局

いよいよ製本するが、もう一度、文章を精査して印刷をし、印刷物を送付させていただきたいと考えています。

任期は、3月31日ですが、4月以降も委員としてお願いにあがる人もいらっしゃると思いますので、よろしくお願いいたします。

委員長

どの委員の言葉も胸に沁み入った。

この計画を誰に知らせるかという点に関連するが、20年後はどうか、ということ踏まえると、30～40歳代の男性に集まってもらって座談会をしてもらうことも重要だと思う。我が子と、自分の子ども、孫にも関わる。「20年後の〇〇地区について」という企画も実施してもらえたらと思う。イベント型のものだけでなく、あなたがどう思うのという議論するような場をもつことが大切だ。介護保険では2025年が注目されている。団塊世代が75歳に到達し、それ以後は高齢化率が下がるとされている。日本の人口がものすごく減ることになる。30～40歳代は仕事に関わる。マーケットが成り立たなくなる。など、さまざまな問題があげられている。

それでは、本日の検討は以上としたい。

事務局

1年間ありがとうございました。次年度以降は、新たに委員の委嘱を行うこととなります。今後もよろしくご協力のほど、お願いいたします。